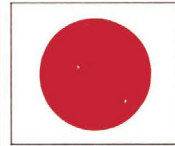


平成四年
皇紀
二千六百五十二年

新年賀謹



毎月十五日発行
宗像大社
〒811-35 福岡県宗像郡玄海町
電話 0940-62-1311(特)
定価 一年送料共 1000円



二月十一日には
国旗を掲げ
建国記念日を
祝いましょう

壬申の年頭にあたり

宗像大社 宮司 養父 守

謹んで新年の御慶びを申し上げます。
年頭にあたり、皇室の弥栄と国家の隆昌、併せて御多幸と御健康を御祈りいたします。

昨年、国の内外ともに激動、異変の年でありました。最先端の科学兵器を駆使した湾岸戦争に始まり、相次ぐ東欧諸国の政変、そして年末には超大国ソ連邦が崩壊するという、歴史に残る大変革の年となりました。

国内では、鳥原の普賢岳が三百年ぶりに火山活動を始め、年明けの今なお、終息の気配もなく、被災者の方々には深い同情の念を禁じ得ません。また、大型台風十九号は日本列島を縦断し、各地に無惨な爪跡を残して去りました。当地は台風の針路にあたりました。幸いにも、沖津宮、中津宮、辺津宮ともに、御社殿はじめ諸施設には殆んど被害はありません。しかし、辺津宮境内の太木、十数本が倒伏しましたので、杉、檜を除く樹木は直ちに大型クレーンで引き起し、鋼索で支え、養生を施し、出来得る限り復元に努めました。造園業者の言によれば、処置を早く行ったので恐らく蘇生するのであるとのことでした。

意味する言葉で、楠、檜、杉、檜などの常緑樹で覆われた森であり、人々は古代から堂々、神々の鎮座する緑豊かな鎮守の森を大切に守り育ててまいりました。こうして残されてきた樹齢数百年の木の生命は何ものにも代え難く、この春の芽吹きが待遠しく思われます。

当大社一宮の全境内地は九州の社寺では数少ない、国の史蹟にも指定されていますが、広域に亘る境内の景観を損うことのないようその保存管理は、万全を期す所存であります。

昨夏より施工中の、沖津宮遙拝所の屋根葺替工事ですが、そのさなかに台風を通り過ぎましたが、この程、鎮座の沖ノ島への渡鳥は、むかしより容易くなく、そのために、江戸時代初期に大島の北岸、岩瀬の地に遙拝所が設けられ、この建物で沖津宮遙拝の祭典が数多く行われ、現在も続けられております。現在の建物は明治、大正、昭和と再三九十一年に鋼板葺きに改められ、女界の強風と塩害により損傷が甚だしく、再度の葺替えを行いました。この春の沖津宮大祭は、新装成ったこの遙拝所で執り行われますが、氏子崇敬者皆様の喜びも一入のことと存じます。

また、沖ノ島の参道についても、昨秋、補修工事を終えました。急坂に築かれた四百段の参道は、自然石を敷き並べた簡素なもので、長い歲月の間に風化して、特に最近では、沖津宮参拝者が増え、そのために基盤が緩み、数石崩落の危険性も高くなってまいりました。このため、全面的に改修、補強工事を行い、安全に登り易い参道となりました。沖ノ島は、宗像祭りの原点であり、絶海の孤島での神明奉仕の熱情が、一日も欠かす事続けられております。

当大社の文化財保存に關わるものとして、昨年は、重要文化財「色定法師一筆一切経」四十二卷、二巻の、二十五年間及び修理事業が完了した記念すべき年でありました。この一切経は、鎌倉時代初期の宗像宮の社僧、色定法師が、唐本宋版の「大藏經」を元本として、四十二年の長年月をかけて一人で書写したもので、当時は総数五千四百八巻あったといわれています。この経巻は、江戸時代の延宝年間修理されて以来、充分な手入れが行われず、虫喰いや、糊離れによる傷みが進み、その修理に国費、県費の補助を受けて施行されることになり、昭和

四十年に、最初の九十五巻が、京都国立博物館内の作業場に運ばれました。爾來、四半世紀の歲月をかけた至善の修復を漸く終えましたが、費用の総額は三億円に及び、そのうち五千万円を当社で負担いたしました。

数多い文化財事業の中で、文化財修復作業を、これ程期に亘り継続してつらつた例は無いといわれていますが、我が国でも稀な、この貴重な一切経の修理を無事に終え、末永く後世に継承する責務を果し得ましたことは、無上の喜びであります。

更に、十二万点に及びます。膨大な沖ノ島出土の、沖津宮祭神奉納品につきましても、昭和五十六年より修理に着手し、十年を経過しましたが、すべて洗浄のうえ、腐蝕、折損、欠落等の科学接合、復元、防錆等の科学処理を施し、逐次、新調の桐製保存箱に収納してあります。この作業は、東京国立博物館修繕室で行っており、現在も、今後なお、数年間を要します。

当大社文書編纂刊行事業につきましても、出版予定が遅延していますが、現在最終段階を迎えております。当社には、中世以降の文書、典籍類が多量に保存伝承されており、その質と量は、神社界屈指のものとい

われていますが、去る昭和五十九年にその編纂事業に着手し、川添昭一教授を中心に着々と進められております。ただ、その編纂については、学術的で且つ一般の人にも、興味深く理解し易いものとするため、従来、あまり見ない画期的な史料集を目指しておりますので、特に先生方には入念精緻な執筆の労を煩わしております。重要文化財指定の二百三十通の中世文書を解説する第三巻は、現在、六回目の最終校正が行われていますが、B5判、五百四十頁に及ぶ本文に加え、詳細な索引、影印本と、作業は煩瑣を極めております。

しかし、精確な空本本を期して、繁忙の中、先生方に最後の校正を御願ひしており、発刊は今夏を予定しております。

当社は以上の国玉、重要文化財のほか、辺津宮本殿、拝殿、阿波乾石、石造木造船倉、対、足利尊氏鎧兜も重要文化財に指定され、全国でも稀にみる多数の貴重な文化財を所有しております。昭和十五年、文化財保護法の制定により、国の文化財保護施設が法制化され、この制度のもとに地方公共団体や、文化財所有者が、それぞれの立場で保護活動に努めていますが、法律のみで解決するものではありません。現在でも充分な保護体制が整っていないわけでありません。文化財の修理、維持管理、財政負担は厳しいものがありますが、行政当局の御指導と御援助により、文化財保護のため、その任を全うしたいと念じております。

御理解と御鞭撻を御願ひいたします。

明平成五年は、第六十一回伊勢神宮式年遷宮の年でありますが、今春二月には、立柱祭、上棟祭が執り行われ、前回の遷宮の折には、特別のお取り計らいにより別宮、玉殿の御遷宮を賜わり、この古縁を以て、当社第三宮、第二宮の復興が実現いたしました。往時を想起しましたが、往時を無終の時の流れに刻みを入れて、神威の更新を仰ぎ、国民の若返り、よみがえりを願う日本人固有の信仰に基づくものであり、古くから常に新しい民族生命の源泉であります。その世紀の祭典が目前に迫っております。神皇正統の念を新たに、皆様に共に奉養の真心を捧げたいと存じます。

今年の正月の内には、穏やかな天候にも恵まれ、初詣の参拝者も多く、延々と車の渋滞が続き、その後も九州一円、中国地方の各地から、バスを運りながらの団体参拝が例年にも増して多く、御社頭は非常に賑わいを見ております。

これも偏に宗像大神の御神徳の発揚によるものと感謝し、また氏子崇敬者の皆様方の御御慶びの賜に感謝いたしております。

本年は申の年ですが、古来この年は、活気に溢れ、物事の伸び伸びと発展し、躍動する縁のよい年とされております。

新しい年が、皆様方にとって、希望が満ちた良い年でありますように御祈り申し上げます。

御社頭 養父 守

敬神生活の綱領
一、神の恵みと祖先の恩に感謝し、明き清きまこと
を以て祭祀にいそむこと
一、世のため人のために奉仕し、神のみこもちとし
て、世をつくりぬく成すこと
一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世
界の共存共栄とを祈ること

行われませんが、氏子崇敬者皆様の喜びも一入のことと存じます。

また、沖ノ島の参道についても、昨秋、補修工事を終えました。急坂に築かれた四百段の参道は、自然石を敷き並べた簡素なもので、長い歲月の間に風化して、特に最近では、沖津宮参拝者が増え、そのために基盤が緩み、数石崩落の危険性も高くなってまいりました。このため、全面的に改修、補強工事を行い、安全に登り易い参道となりました。沖ノ島は、宗像祭りの原点であり、絶海の孤島での神明奉仕の熱情が、一日も欠かす事続けられております。

当大社の文化財保存に關わるものとして、昨年は、重要文化財「色定法師一筆一切経」四十二卷、二巻の、二十五年間及び修理事業が完了した記念すべき年でありました。この一切経は、鎌倉時代初期の宗像宮の社僧、色定法師が、唐本宋版の「大藏經」を元本として、四十二年の長年月をかけて一人で書写したもので、当時は総数五千四百八巻あったといわれています。この経巻は、江戸時代の延宝年間修理されて以来、充分な手入れが行われず、虫喰いや、糊離れによる傷みが進み、その修理に国費、県費の補助を受けて施行されることになり、昭和

四十年に、最初の九十五巻が、京都国立博物館内の作業場に運ばれました。爾來、四半世紀の歲月をかけた至善の修復を漸く終えましたが、費用の総額は三億円に及び、そのうち五千万円を当社で負担いたしました。

数多い文化財事業の中で、文化財修復作業を、これ程期に亘り継続してつらつた例は無いといわれていますが、我が国でも稀な、この貴重な一切経の修理を無事に終え、末永く後世に継承する責務を果し得ましたことは、無上の喜びであります。

更に、十二万点に及びます。膨大な沖ノ島出土の、沖津宮祭神奉納品につきましても、昭和五十六年より修理に着手し、十年を経過しましたが、すべて洗浄のうえ、腐蝕、折損、欠落等の科学接合、復元、防錆等の科学処理を施し、逐次、新調の桐製保存箱に収納してあります。この作業は、東京国立博物館修繕室で行っており、現在も、今後なお、数年間を要します。

当大社文書編纂刊行事業につきましても、出版予定が遅延していますが、現在最終段階を迎えております。当社には、中世以降の文書、典籍類が多量に保存伝承されており、その質と量は、神社界屈指のものとい

われていますが、去る昭和五十九年にその編纂事業に着手し、川添昭一教授を中心に着々と進められております。ただ、その編纂については、学術的で且つ一般の人にも、興味深く理解し易いものとするため、従来、あまり見ない画期的な史料集を目指しておりますので、特に先生方には入念精緻な執筆の労を煩わしております。重要文化財指定の二百三十通の中世文書を解説する第三巻は、現在、六回目の最終校正が行われていますが、B5判、五百四十頁に及ぶ本文に加え、詳細な索引、影印本と、作業は煩瑣を極めております。

しかし、精確な空本本を期して、繁忙の中、先生方に最後の校正を御願ひしており、発刊は今夏を予定しております。

当社は以上の国玉、重要文化財のほか、辺津宮本殿、拝殿、阿波乾石、石造木造船倉、対、足利尊氏鎧兜も重要文化財に指定され、全国でも稀にみる多数の貴重な文化財を所有しております。昭和十五年、文化財保護法の制定により、国の文化財保護施設が法制化され、この制度のもとに地方公共団体や、文化財所有者が、それぞれの立場で保護活動に努めていますが、法律のみで解決するものではありません。現在でも充分な保護体制が整っていないわけでありません。文化財の修理、維持管理、財政負担は厳しいものがありますが、行政当局の御指導と御援助により、文化財保護のため、その任を全うしたいと念じております。

御理解と御鞭撻を御願ひいたします。

明平成五年は、第六十一回伊勢神宮式年遷宮の年でありますが、今春二月には、立柱祭、上棟祭が執り行われ、前回の遷宮の折には、特別のお取り計らいにより別宮、玉殿の御遷宮を賜わり、この古縁を以て、当社第三宮、第二宮の復興が実現いたしました。往時を想起しましたが、往時を無終の時の流れに刻みを入れて、神威の更新を仰ぎ、国民の若返り、よみがえりを願う日本人固有の信仰に基づくものであり、古くから常に新しい民族生命の源泉であります。その世紀の祭典が目前に迫っております。神皇正統の念を新たに、皆様に共に奉養の真心を捧げたいと存じます。

今年の正月の内には、穏やかな天候にも恵まれ、初詣の参拝者も多く、延々と車の渋滞が続き、その後も九州一円、中国地方の各地から、バスを運りながらの団体参拝が例年にも増して多く、御社頭は非常に賑わいを見ております。

これも偏に宗像大神の御神徳の発揚によるものと感謝し、また氏子崇敬者の皆様方の御御慶びの賜に感謝いたしております。

本年は申の年ですが、古来この年は、活気に溢れ、物事の伸び伸びと発展し、躍動する縁のよい年とされております。

新しい年が、皆様方にとって、希望が満ちた良い年でありますように御祈り申し上げます。

御社頭 養父 守

敬神生活の綱領
一、神の恵みと祖先の恩に感謝し、明き清きまこと
を以て祭祀にいそむこと
一、世のため人のために奉仕し、神のみこもちとし
て、世をつくりぬく成すこと
一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世
界の共存共栄とを祈ること

御社頭 養父 守

敬神生活の綱領
一、神の恵みと祖先の恩に感謝し、明き清きまこと
を以て祭祀にいそむこと
一、世のため人のために奉仕し、神のみこもちとし
て、世をつくりぬく成すこと
一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世
界の共存共栄とを祈ること

御社頭 養父 守

敬神生活の綱領
一、神の恵みと祖先の恩に感謝し、明き清きまこと
を以て祭祀にいそむこと
一、世のため人のために奉仕し、神のみこもちとし
て、世をつくりぬく成すこと
一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世
界の共存共栄とを祈ること

御社頭 養父 守

敬神生活の綱領
一、神の恵みと祖先の恩に感謝し、明き清きまこと
を以て祭祀にいそむこと
一、世のため人のために奉仕し、神のみこもちとし
て、世をつくりぬく成すこと
一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世
界の共存共栄とを祈ること

御社頭 養父 守

敬神生活の綱領
一、神の恵みと祖先の恩に感謝し、明き清きまこと
を以て祭祀にいそむこと
一、世のため人のために奉仕し、神のみこもちとし
て、世をつくりぬく成すこと
一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世
界の共存共栄とを祈ること

御社頭 養父 守

敬神生活の綱領
一、神の恵みと祖先の恩に感謝し、明き清きまこと
を以て祭祀にいそむこと
一、世のため人のために奉仕し、神のみこもちとし
て、世をつくりぬく成すこと
一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世
界の共存共栄とを祈ること

御社頭 養父 守

敬神生活の綱領
一、神の恵みと祖先の恩に感謝し、明き清きまこと
を以て祭祀にいそむこと
一、世のため人のために奉仕し、神のみこもちとし
て、世をつくりぬく成すこと
一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世
界の共存共栄とを祈ること

御社頭 養父 守

敬神生活の綱領
一、神の恵みと祖先の恩に感謝し、明き清きまこと
を以て祭祀にいそむこと
一、世のため人のために奉仕し、神のみこもちとし
て、世をつくりぬく成すこと
一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世
界の共存共栄とを祈ること

御社頭 養父 守

敬神生活の綱領
一、神の恵みと祖先の恩に感謝し、明き清きまこと
を以て祭祀にいそむこと
一、世のため人のために奉仕し、神のみこもちとし
て、世をつくりぬく成すこと
一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世
界の共存共栄とを祈ること

御社頭 養父 守

敬神生活の綱領
一、神の恵みと祖先の恩に感謝し、明き清きまこと
を以て祭祀にいそむこと
一、世のため人のために奉仕し、神のみこもちとし
て、世をつくりぬく成すこと
一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世
界の共存共栄とを祈ること

御社頭 養父 守

敬神生活の綱領
一、神の恵みと祖先の恩に感謝し、明き清きまこと
を以て祭祀にいそむこと
一、世のため人のために奉仕し、神のみこもちとし
て、世をつくりぬく成すこと
一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世
界の共存共栄とを祈ること

御社頭 養父 守

敬神生活の綱領
一、神の恵みと祖先の恩に感謝し、明き清きまこと
を以て祭祀にいそむこと
一、世のため人のために奉仕し、神のみこもちとし
て、世をつくりぬく成すこと
一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世
界の共存共栄とを祈ること

御社頭 養父 守

敬神生活の綱領
一、神の恵みと祖先の恩に感謝し、明き清きまこと
を以て祭祀にいそむこと
一、世のため人のために奉仕し、神のみこもちとし
て、世をつくりぬく成すこと
一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世
界の共存共栄とを祈ること

御社頭 養父 守

敬神生活の綱領
一、神の恵みと祖先の恩に感謝し、明き清きまこと
を以て祭祀にいそむこと
一、世のため人のために奉仕し、神のみこもちとし
て、世をつくりぬく成すこと
一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世
界の共存共栄とを祈ること

御社頭 養父 守

敬神生活の綱領
一、神の恵みと祖先の恩に感謝し、明き清きまこと
を以て祭祀にいそむこと
一、世のため人のために奉仕し、神のみこもちとし
て、世をつくりぬく成すこと
一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世
界の共存共栄とを祈ること

御社頭 養父 守

敬神生活の綱領
一、神の恵みと祖先の恩に感謝し、明き清きまこと
を以て祭祀にいそむこと
一、世のため人のために奉仕し、神のみこもちとし
て、世をつくりぬく成すこと
一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世
界の共存共栄とを祈ること

御社頭 養父 守

敬神生活の綱領
一、神の恵みと祖先の恩に感謝し、明き清きまこと
を以て祭祀にいそむこと
一、世のため人のために奉仕し、神のみこもちとし
て、世をつくりぬく成すこと
一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世
界の共存共栄とを祈ること

御社頭 養父 守

敬神生活の綱領
一、神の恵みと祖先の恩に感謝し、明き清きまこと
を以て祭祀にいそむこと
一、世のため人のために奉仕し、神のみこもちとし
て、世をつくりぬく成すこと
一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世
界の共存共栄とを祈ること

御社頭 養父 守

敬神生活の綱領
一、神の恵みと祖先の恩に感謝し、明き清きまこと
を以て祭祀にいそむこと
一、世のため人のために奉仕し、神のみこもちとし
て、世をつくりぬく成すこと
一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世
界の共存共栄とを祈ること

御社頭 養父 守

敬神生活の綱領
一、神の恵みと祖先の恩に感謝し、明き清きまこと
を以て祭祀にいそむこと
一、世のため人のために奉仕し、神のみこもちとし
て、世をつくりぬく成すこと
一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世
界の共存共栄とを祈ること

御社頭 養父 守

敬神生活の綱領
一、神の恵みと祖先の恩に感謝し、明き清きまこと
を以て祭祀にいそむこと
一、世のため人のために奉仕し、神のみこもちとし
て、世をつくりぬく成すこと
一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世
界の共存共栄とを祈ること

御社頭 養父 守

敬神生活の綱領
一、神の恵みと祖先の恩に感謝し、明き清きまこと
を以て祭祀にいそむこと
一、世のため人のために奉仕し、神のみこもちとし
て、世をつくりぬく成すこと
一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世
界の共存共栄とを祈ること

御社頭 養父 守

敬神生活の綱領
一、神の恵みと祖先の恩に感謝し、明き清きまこと
を以て祭祀にいそむこと
一、世のため人のために奉仕し、神のみこもちとし
て、世をつくりぬく成すこと
一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世
界の共存共栄とを祈ること

御社頭 養父 守

敬神生活の綱領
一、神の恵みと祖先の恩に感謝し、明き清きまこと
を以て祭祀にいそむこと
一、世のため人のために奉仕し、神のみこもちとし
て、世をつくりぬく成すこと
一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世
界の共存共栄とを祈ること

御社頭 養父 守

敬神生活の綱領
一、神の恵みと祖先の恩に感謝し、明き清きまこと
を以て祭祀にいそむこと
一、世のため人のために奉仕し、神のみこもちとし
て、世をつくりぬく成すこと
一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世
界の共存共栄とを祈ること

御社頭 養父 守

敬神生活の綱領
一、神の恵みと祖先の恩に感謝し、明き清きまこと
を以て祭祀にいそむこと
一、世のため人のために奉仕し、神のみこもちとし
て、世をつくりぬく成すこと
一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世
界の共存共栄とを祈ること

御社頭 養父 守

敬神生活の綱領
一、神の恵みと祖先の恩に感謝し、明き清きまこと
を以て祭祀にいそむこと
一、世のため人のために奉仕し、神のみこもちとし
て、世をつくりぬく成すこと
一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世
界の共存共栄とを祈ること

御社頭 養父 守

敬神生活の綱領
一、神の恵みと祖先の恩に感謝し、明き清きまこと
を以て祭祀にいそむこと
一、世のため人のために奉仕し、神のみこもちとし
て、世をつくりぬく成すこと
一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世
界の共存共栄とを祈ること

御社頭 養父 守

敬神生活の綱領
一、神の恵みと祖先の恩に感謝し、明き清きまこと
を以て祭祀にいそむこと
一、世のため人のために奉仕し、神のみこもちとし
て、世をつくりぬく成すこと
一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世
界の共存共栄とを祈ること

御社頭 養父 守

敬神生活の綱領
一、神の恵みと祖先の恩に感謝し、明き清きまこと
を以て祭祀にいそむこと
一、世のため人のために奉仕し、神のみこもちとし
て、世をつくりぬく成すこと
一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世
界の共存共栄とを祈ること

御社頭 養父 守

敬神生活の綱領
一、神の恵みと祖先の恩に感謝し、明き清きまこと
を以て祭祀にいそむこと
一、世のため人のために奉仕し、神のみこもちとし
て、世をつくりぬく成すこと
一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世
界の共存共栄とを祈ること

御社頭 養父 守

敬神生活の綱領
一、神の恵みと祖先の恩に感謝し、明き清きまこと
を以て祭祀にいそむこと
一、世のため人のために奉仕し、神のみこもちとし
て、世をつくりぬく成すこと
一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世
界の共存共栄とを祈ること

御社頭 養父 守

敬神生活の綱領
一、神の恵みと祖先の恩に感謝し、明き清きまこと
を以て祭祀にいそむこと
一、世のため人のために奉仕し、神のみこもちとし
て、世をつくりぬく成すこと
一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世
界の共存共栄とを祈ること

御社頭 養父 守

敬神生活の綱領
一、神の恵みと祖先の恩に感謝し、明き清きまこと
を以て祭祀にいそむこと
一、世のため人のために奉仕し、神のみこもちとし
て、世をつくりぬく成すこと
一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世
界の共存共栄とを祈ること

御社頭 養父 守

敬神生活の綱領
一、神の恵みと祖先の恩に感謝し、明き清きまこと
を以て祭祀にいそむこと
一、世のため人のために奉仕し、神のみこもちとし
て、世をつくりぬく成すこと
一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世
界の共存共栄とを祈ること

御社頭 養父 守

敬神生活の綱領
一、神の恵みと祖先の恩に感謝し、明き清きまこと
を以て祭祀にいそむこと
一、世のため人のために奉仕し、神のみこもちとし
て、世をつくりぬく成すこと
一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世
界の共存共栄とを祈ること

御社頭 養父 守

敬神生活の綱領
一、神の恵みと祖先の恩に感謝し、明き清きまこと
を以て祭祀にいそむこと
一、世のため人のために奉仕し、神のみこもちとし
て、世をつくりぬく成すこと
一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世
界の共存共栄とを祈ること

御社頭 養父 守

敬神生活の綱領
一、神の恵みと祖先の恩に感謝し、明き清きまこと
を以て祭祀にいそむこと
一、世のため人のために奉仕し、神のみこもちとし
て、世をつくりぬく成すこと
一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世
界の共存共栄とを祈ること

御社頭 養父 守

敬神生活の綱領
一、神の恵みと祖先の恩に感謝し、明き清きまこと
を以て祭祀にいそむこと
一、世のため人のために奉仕し、神のみこもちとし
て、世をつくりぬく成すこと
一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世
界の共存共栄とを祈ること

御社頭 養父 守

敬神生活の綱領
一、神の恵みと祖先の恩に感謝し、明き清きまこと
を以て祭祀にいそむこと
一、世のため人のために奉仕し、神のみこもちとし
て、世をつくりぬく成すこと
一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世
界の共存共栄とを祈ること

御社頭 養父 守

平成四年の新春

近年にない参拝者で賑った社頭



昨年一年間の全てを洗い流すかのような小雨のそぼ降る中、平成四年の新春を迎え、本年一年の平穏無事と大いなる飛躍を願う参拝者で、当社の社頭は例年になく賑わった。

湾岸戦争、ソビエト連邦の崩壊、また雲仙警署岳の噴火、宮沢政隆の誕生と、国内、外共に特に激動の一年であった平成三年も、年の最後を締めくくる除夜祭の参拝で幕を閉じ、迎春の準備もすっかり整った境内は、しばしの静寂が漂った。

平成四年の黎明が刻一刻と近づく中、午後十時頃より初春を当社社頭で迎えるようとする参拝者が集い始め、神門前の大庭燎が点火された同一時刻には、大駐車場もすでに満車状態となり、浄園の中で揺らめく篝火の赤い炎が、新年を待ちわびるかのようには輝いて



平成四年正月旦日、午前零時、本年一年の力強い歩みを鼓舞するかのような大太鼓の音を合図に、閉ざされていた神門が神職、玄海町消防団役員により開扉されると、参拝者はわれ先にと神前に殺到、様々な願いを込めて、一心に祈る人々の拍手が神苑にこだました。

授子所には、御守りや神札を、また魔除、鐘矢、福迎え、干支一刀彫などの縁起物を受ける人々が列をなし、鏡餅、文金盃、家庭、レジャー用品、ぬいぐるみなど盛り山の記念品を準備した特設の福みくじ舎も、本年の福運を試みようとする人達で溢れ、初詣の参拝者は途切れることなく続いた。

一方、新年の交通安全、家内安全等の祈願祭も午前零時を期して行われ、拜殿では九州警察鉄道團石井幸孝社長以下三千数名の幹願祭、続いて(社)宗像青年会議所井上常務理事以下役員らの祈願祭が実行された。

また儀式殿では、家内安全、厄除け、業務繁栄等の、更に大駐車場正面の祈願殿では本年一年の交通安全を願う人々の祈願祭がそれぞれ行われ、祭典を告げる太鼓の音が次から次へと鳴り響いた。

祈願殿前の大駐車場は、参拝車輛で夜明迄満車状態が続き、当社への道路は

ヘッドライトの光が延々と連なつた。境内を流れる雅楽の調べ、車輛のエンジン音の響き、祭典案内の放送の声、交通安全整理員の笛の音などが一緒にあって、いつものながらの雑踏と数雨の霏霂が奇妙な調和した、初春の光景であった。

本年は、例年になく暖かな正月となった上、五日が日曜日ということもあって、例年の三々日の賑いが五日に連続し、六日からは仕事開始に伴って参拝者の減少、更に九州各県からの団体参拝もあり、近年にない賑わいとなつた。



反面、昨年からの経済不況の兆、また貿易不均衡による諸外国の圧力など、社会情勢は不測を許さないものがあるだけに、参拝者はその空気を敏感に感じており、年頭に神前で真剣に祈る人々の表情には、いつにも増して家族の安全と幸福を願う気持ちが、強く込められているようであった。

御 礼

当社恒例の大祓式参行に当りましては、宗像市・郡内氏子各位並びに全国崇敬者の皆様より多数の人数をお寄せ戴き、お蔭を以ちまして、祭典は天候にも思まされ滞りなく、盛大裡に参行致すことが出来ました。ここに誌上を以ちまして御礼申し上げます。

平成四年一月吉日

宗像 大社
宮司 養父 守

献米袋配布並に取纏め御礼

平成三年度、宗像市献米袋配布参行にあたり、市・郡氏子各位への献米袋配布並に取纏めにつきましては、年々開始お忙しい中、御協賛を賜り厚く御礼申し上げます。

祭典は例年にもまして盛大厳肅に参行致すことが出来ました。ここに誌上をもちまして御礼申し上げます。

平成四年一月吉日

宗像 大社
宮司 養父 守

宗像大社氏子会評議員 各位
宗像大社氏子会総代
会長 河野 幸人

謹んで新年の御祝詞を申し上げます

平成四年 元旦

宗像大社責任役員会
宗像大社氏子総代会
宗像大社沖中両宮奉賛会

- 宗像大社責任役員会
代表役員 養父 守
責任役員 出光 昭介
〃 永倉 三郎
〃 木本 元敬
〃 河野 幸人
〃 山本 三吾
〃 占部 真太郎
〃 占部 文男
〃 古賀 芳人
- 宗像大社氏子総代会
会長 河野 幸人
副会長 倉元 清彦
〃 占部 文男
〃 出光 大蔵
〃 新海 伍郎
〃 黒田 繁男
〃 黒石 満
〃 梶野 寛治
〃 寺嶋 忠実
- 宗像大社沖中両宮奉賛会
会長 河野 幸人
副会長 沖西 彰
〃 宮本幸志丸

- 宮司 養父 守
権宮司 太田 可愛
〃 山田 勝良
〃 山田 幸雄
〃 神島 定
〃 大野 宗隆
〃 石橋 清寿
〃 堤 宏
〃 高岡 正秀
〃 門司 成人
〃 玉木 正之
〃 渡辺 秀丸
〃 杉山 安彦
〃 藤川 耕一
〃 宇都宮 勤
〃 伊藤 佳和
〃 葦津 幹之
〃 菅生 肇
〃 中野 京恵
〃 石松 慎子
〃 萩野 和美
〃 入江 累恵
〃 白石 泰代
〃 本田 千佳
〃 麻生真由美
〃 安部 三奈
- 巫女 副島 順子
〃 力丸さなえ
〃 小田みどり
〃 田中 妙
〃 小林真知子
〃 小川 昌恵
〃 樋口 美恵
〃 後藤 美紀
〃 渡邊 和夫
〃 伊藤 千秋
〃 大西 長生
〃 吉武 隆則
〃 花田 清己
〃 深田 仁
〃 広橋 康子
〃 井上美子代
〃 原 カズ子
〃 阿部 和代
〃 管理員 占部チヨカ
〃 管理員 堀 豊二郎
〃 囃子 藤川 宜重
〃 囃子 石井 忠
〃 警備 河津宗一郎
〃 松崎 正信
〃 橋 正信
〃 中村 五郎
〃 小方 百枝

平成四年 1992

交通安全宗像大社の御神徳をたたえ奉りて

謹んで新年の御祝詞を申し上げます

福岡日産自動車株式会社
取締役社長 有 吉 龍 健
福岡市博多区千代1丁目21番37号
電話 (代) 092-633-5523

日産ディーゼル福岡販売株式会社
取締役社長 福 永 芳 雄
福岡市東区多の津1丁目39番4
電話 (代) 092-629-1831

日産サニー福岡販売株式会社
代表取締役社長 向 野 武 敏
福岡市博多区半道橋1丁目9番10号
電話 (代) 092-411-4132

日産プリンス福岡販売株式会社
取締役社長 三 好 久 夫
福岡市中央区平尾3丁目5-3
電話 (代) 092-531-9561

福岡日産モーター株式会社
取締役社長 井 内 雅 夫
福岡市博多区東比恵2丁目14-33
電話 (代) 092-441-2323

今年も安全運転を心掛けて下さい

NISSAN

師走の神事

古式祭・鎮火祭齋行

例年ならば寒気の厳しい十一月十五日早朝「神郡式祭」が、近年にない暖かさ



の中斎行された。この古式祭は、地元氏子の奉仕による年間最後の新穀感謝祭で、神社の火で炊いた一つの釜の食物を氏子の方々が神様に共にいただく神事である。

八百年の伝統を持ち、九年毎、菱餅で作った「お菓子」、江口の浜よりあがる「ゲバサモ」という海草と大豆で和えた特別な神饌をお供えし、十一月十五日の未明に「お座」を催すのがしきたりとなっている。この「お座」は、現在飛松・吹浦・片脇・本村・宿ノ谷・山下・上殿・福田の八地区が年々交替で奉仕されているが、本年は福田地区の氏子により執り行われた。また夜の明けきらぬ午前六時、宮司以下神職、地元総代とお座の当番代表並び

天長祭齋行

今上陛下の御安泰を祈念し

昨年十一月二十三日午前十一時より天皇誕生日を奉祝、賑やかに天長祭を執り行われた。当日は生憎の曇天であったが、定刻には斎服に威儀を正し、兼父宮司以下参員、舞姫、氏子参列者が斎館玄関に列立、太鼓の合図と共に祝歌に参進した。大蔵・塩湯により祓を行い本殿着座、献饗の後国家、皇室の安泰を祈念、天皇陛下の御長寿を祈念、祝詞が奏上された。

続いて昭和天皇の御製「天地の神にぞ祈る朝風の海の如く波たたぬ世を」

十八才の御誕生日をお迎えした。皇居に於いては当日御祝の一般参賀があり、天皇陛下は皇居下、皇太子殿下、秋篠宮殿下、同妃殿下



下、紀伊屋敷・寛政屋敷・同妃殿下と共に長和殿ベランダにお出ましになられ、参賀者の祝儀をお受けになられた。午前中参賀に訪れた人は一万三千人、午後の宮内庁庁舎前での記録参賀には五人が訪れ御礼申し上げた。

去る十二月十九日、恒例の北筑社氏組合主催による松尾神社祭が午前十時斎行された。この祭典は、師走の新酒の仕込み初めのお祭である。時刻になると自慢の酒を手にし、氏氏さんが顔を見せ、午前十時祭典が開始された。先ず石橋権彦氏の祝詞奏上の後、社氏代表者による玉串拝礼が行われ、新酒の仕込みが無事に終わるよう、敬虔な祈りが捧げられた。又同様に本殿に於いても斎行された。

松尾神社祭齋行

今年の正月は暖冬で、各酒造家とも早熟が懸念されるが、これからの米の選定そして造りに至るまで気がぬけない、大事な時期である。酒の繊細な美味しさには、やはり長年の経験と勘とが

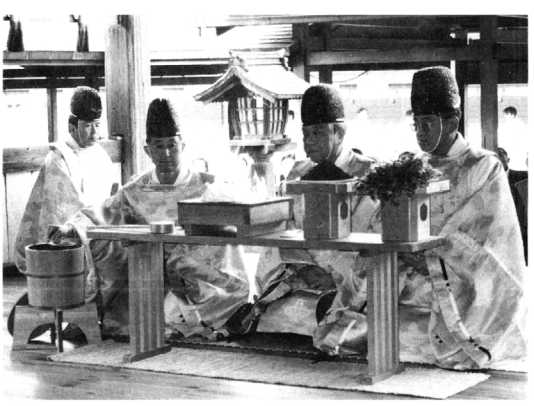
作用する。それだけに新酒がで上がるまで、社氏さんが家人と離れて空屋にこもり、ただ一心に酒造りに取り組む生活は苦難の仕事である。

日本人の生活になくはならない酒。喜びにも悲しみにも口とされる酒。それだけに、無事に新酒の仕込みが終り、社氏さんが自慢の酒を手にする日が待たしい。



この祭典は「ほしずめの祭」と称され、昔は火災を防止するために、京城の四隅の道の上で、卜部等が火を鑽って祭典が行われていたこと由来する。当社に於いても、拝殿にて兼父宮司が火打石により忌火を鑽って点火し、ひさごでもって水を振り注ぎ、赤土をかけ、その上より川葉を覆う鎮火の儀式が行われた。

祭典には、宗像地区市町村長、宗像警察署長、宗像地区消防本部長、消防団長等関係者多数が参列し、一年間の防火安全祈り、祭典は滞り無終了した。



社務日誌抄
十一月一日 月次祭
職員会議
助志学校体育連盟副会長大串敏夫氏外二十三名
十一月一日 KBC九州朝日放送本報他撮影取材の為来社
第四十三期出光興産株

十一月四日 熊本県鹿嶋町文化財保護委員会七名参拝
十一月六日 第四十三期出光興産株店主室教育研修開始
宗像記者クラブ正月準備取材
十一月七日 NHK福岡放送「たび情報」取材の為来社
第七管区海上保安部長櫻本一夫氏外三名来社
十一月八日 玄海町消防団第一分団正月祭準備打合せ会議
十一月十日 正月祭関係四者会議
十一月十一日 FBS福岡放送正月準備取材の為にポスター矢野より氏子、ディレクター主幹美保氏外三名来社
十一月十三日 KBCプロデュースBOEディレクター池田秀氏外二名「九州街道物語」取材の為来社
十一月十五日 古式祭・鎮火祭
十一月十五日 古式祭・鎮火祭
三三建設機工福岡支店長田井則臣氏参拝
十一月十七日 北海道石油共同備蓄課北海道事業所長佐藤三郎氏外三名参拝
宮地嶽神社権司宮内勲氏就任挨拶の為来社
十一月十八日 出光興産株中央訓練所々長藤原三氏外三名参拝
十一月十九日 松尾神社祭
北筑消防社氏組合七名参列
十一月二十日 天長祭
職員会議
十一月十七日 地元総代協力至正月祭準備奉仕

十二月二十日 KBCテレビ報道部田井氏外正月番組「残った日本」取材放送に付沖ノ島へ渡島
十二月三十一日 大祓式・除夜祭

店主室教育研修開始
十一月四日 熊本県鹿嶋町文化財保護委員会七名参拝
十一月六日 第四十三期出光興産株店主室教育研修開始
宗像記者クラブ正月準備取材
十一月七日 NHK福岡放送「たび情報」取材の為来社
第七管区海上保安部長櫻本一夫氏外三名来社
十一月八日 玄海町消防団第一分団正月祭準備打合せ会議
十一月十日 正月祭関係四者会議
十一月十一日 FBS福岡放送正月準備取材の為にポスター矢野より氏子、ディレクター主幹美保氏外三名来社
十一月十三日 KBCプロデュースBOEディレクター池田秀氏外二名「九州街道物語」取材の為来社
十一月十五日 古式祭・鎮火祭
十一月十五日 古式祭・鎮火祭
三三建設機工福岡支店長田井則臣氏参拝
十一月十七日 北海道石油共同備蓄課北海道事業所長佐藤三郎氏外三名参拝
宮地嶽神社権司宮内勲氏就任挨拶の為来社
十一月十八日 出光興産株中央訓練所々長藤原三氏外三名参拝
十一月十九日 松尾神社祭
北筑消防社氏組合七名参列
十一月二十日 天長祭
職員会議
十一月十七日 地元総代協力至正月祭準備奉仕

平成四年 1992

交通安全宗像大社の御神徳をたたえ奉りて

謹んで新年の御祝詞を申し上げます

九州スズキ販売株式会社
代表取締役 久保源悟
福岡市博多区下呉服町九番三三号
電話(代)〇九二〇五三五五番

福岡ダイハツ販売株式会社
代表取締役 内山学
福岡市博多区東比恵四丁目十番七号
電話(代)〇九二〇一三三三番

福岡日野自動車株式会社
取締役社長 樽木雅春
福岡市東区箱崎多頭二丁目番七号
電話(代)〇九二〇一一七三番

九州三菱ふそう自動車販売株式会社
取締役社長 宮崎慶一
福岡市東区箱崎多頭五丁目四番七号
電話(代)〇九二〇八一八一番

法団 日本自動車連盟九州本部
本部長 植竹陽介
福岡市中央区六本松二丁目番十号(第百生命ビル内)
電話(代)〇九二〇二七六一番

宗像大社歌会 俳句作品集 (三四六)

第三七回 宗像大社歌会詠草 中村 吾郎 選 毎月末日メ切

若松 井手 清隆
群鴨の姿餅に翔ちし水しぶき
田熊 力丸 一郎
行く年を飾りて咲ける山茶花のつぼみ新になほも咲きつく

福岡 森 清
魚を売る友頼被りして老いぬ
(評) 来る年でなく行く年とある処が眼目。その一言が作者の生涯を物語る。下旬の表現にも無駄がない。

藤沢 井上 玄洋
富士白く師走の海の果てに佇つ
八幡東 大塩ミヤ子
水鳥が駆籠船にたむろする台風去りて風きたる海に

田熊 安部 ゆき
会席の膳に眞赤な落葉添ゆぶ
(評) 台風のとき、水鳥は何処に潜んでいたのであらうかという思いは言わず、ありのままの描写がよい。

滋賀 岩瀬 辰夫
お正月猿廻し来て児等が喜ぶ
名古屋 小田 喜一
草もみじ日ざしをともに分かち合ふ

福岡中央 力丸 玄風
つくばいの明治は生きて年用意
田熊 驚頭かつ代
忘れたき過去は心にしこりみてつひ先ほどの事は浮かばず

自由ヶ丘 細川 絹子
山茶花の初花輝く朝の庭
赤間ヶ丘 松本 澄子
無果花の熟れ実には蜂の止まりもて蜜を吸ひをりいく処にも

名古屋 小田 留子
十五夜の月それぞれに老いゆくか
福岡東 桜井 ツ子
寝ねがてに仰ぐ街空あかるきに粉れず冬の星塵渡々たり

自由ヶ丘 細川 絹子
山茶花の初花輝く朝の庭
日溜りを追ひて津江富美子
辺につわ路の花光りを返す

自由ヶ丘 細川 絹子
山茶花の初花輝く朝の庭
須恵 馬場 ヤヲ
朝あさの目覚めに手足の屈伸をなして安堵すわれの体調

自由ヶ丘 細川 絹子
山茶花の初花輝く朝の庭
八幡西 山田 耕夕
痛みもつ心を打ちぬびゅうびゅうと秋の木枯らし夜をこめて鳴る

自由ヶ丘 細川 絹子
山茶花の初花輝く朝の庭
小倉北 榎原 静子
いきなりに雷鳴とどろきみぞれ降る森の斜面は白く曇りぬ

自由ヶ丘 細川 絹子
山茶花の初花輝く朝の庭
池田 小田しめの
秋ふかし野の窓辺に残り花く紫みかき野はたんの花

自由ヶ丘 細川 絹子
山茶花の初花輝く朝の庭
光岡 竹浦 葛明
川の面をすれすれに飛ぶ白鷺は鋭きまで獲物を求む

自由ヶ丘 細川 絹子
山茶花の初花輝く朝の庭
福岡東 清原 絹代
台風の鱈を売らんと呼ぶ声の市場の中にひとさわ高し



吉留 高山 信子
運々として進めぬ我が心をば切り返しつづつ耕しゆけり
滋賀 岩瀬 辰夫
猿廻し正月に来て去を見せ鮎買はされし思出懐し
武丸 中村さつき
澁石が流れて出来し霧島の清水豊けし閨の尾の滝
徳重 石松や寿子
峡の田も黒の絨靴敷きしと千羽鳥が翼やすめおり
八幡東 江口 妙子
台風に櫻老木の引裂かれ窓より見ゆる身に痛きまで
小倉北 松本 政子
ヤシ原に風道あらん音のして傾きゆるるその葉を見れば
原町 八波 五月
我が土産の一畑薬師の目葉が姑の手箱に残りて有りき
大島 日原 節子
季水く咲ける野菊の一群が雨もよう日を崖に輝く
自由ヶ丘 細川 絹子
早朝に通る道辺のひとところ灯り洩れるパン作る店
自由ヶ丘 津江富美子
日溜りを追ひて津江富美子
須恵 馬場 ヤヲ
朝あさの目覚めに手足の屈伸をなして安堵すわれの体調
八幡西 山田 耕夕
痛みもつ心を打ちぬびゅうびゅうと秋の木枯らし夜をこめて鳴る
小倉北 榎原 静子
いきなりに雷鳴とどろきみぞれ降る森の斜面は白く曇りぬ
池田 小田しめの
秋ふかし野の窓辺に残り花く紫みかき野はたんの花
大島 尾形トミエ
台風のあらる中に独り居の老等せつなく電話に確かむ

宗像大社一ヶ年祭事表

一月一日	元旦祭
一月二日	新年祭
一月三日	元始祭
一月十三日	献米奉告祭
一月十五日	成人祭
二月三日	節分祭
二月十一日	建国祭
三月十九日	松尾神社祭
三月二十日	皇霊殿遥拝式
四月一・二日	春季大祭
四月二日	宗像護国神社祭
四月十七日	沖・中両宮春季大祭
四月二十九日	昭和祭
五月五日	五月祭・浜宮祭
五月二十七日	沖津宮現地大祭
七月十五日	祇園祭
七月三十一日	大祓式並夏越祭
八月七日	中津宮七夕祭
八月十五日	護国神社戦没者追悼祭
九月一日	千灯明
九月一日	風鎮祭
九月二十三日	皇霊殿遥拝式
十月一日	海上神幸「みあれ祭」
十月一・三日	秋季大祭「田島放生会」
十月三日	宗像護国神社祭
十月十日	沖・中両宮秋季大祭
十月十七日	表千家々元献茶祭
十一月三日	明治祭
十一月十五日	七五三祭
十一月二十三日	新嘗祭
十二月十五日	古式祭並鎮火祭
十二月十九日	松尾神社祭
十二月二十三日	天長祭
十二月三十一日	大祓式並除夜祭

賀正

松尚開発株式会社
福岡国際カントリークラブ
池と赤松の三十六ホール

福岡県宗像市大字朝町
電話〇九四〇・三二二三四(代)

節分祭ご案内

新春を迎え、皆様方におかれましては益々御清栄のことと存じます。

扱て、当大社恒例の節分祭を左記の如く肅行致しますので御参拝下さいますようご案内申し上げます。

記
一、日時 平成四年二月三日 午前十時
祭典終了後、豆打式
一、会場 当大社祈願殿
平成四年一月吉日
宗像大社社務所 各

一月二十六日(一月九日迄、厄除祈願祭を左記により終日執り行います。

記
一、祈願祭典場 於儀式殿
一、祈願初穂料 一人 五〇〇円
一、授与品 福升一箇(福豆入一合)
厄除守一俵・開運札一俵

賀正

玄界灘を望む風光明媚な
格調高いシーサイド・コース

西日本開発株式会社 玄海ゴルフクラブ

福岡県宗像郡玄海町
電話〇九四〇・六二二二三(代)

新年おめでとうございます

〇玄海国定公園の中心……風光明媚……生魚料理……宗像大社からバス五分……神湊旅館組合

魚屋旅館 電話 〇九四〇・六二二二二番	みなと荘 電話 〇九四〇・六二二二五番	玄海旅館 電話 〇九四〇・六二二〇〇番	高嘉旅館 電話 〇九四〇・六二二二二番	ニユー千鳥荘 電話 〇九四〇・六二二〇六番	大島屋旅館 電話 〇九四〇・六二二五五番	松風荘 電話 〇九四〇・六二二〇二番	泉館旅館 電話 〇九四〇・六二二〇三五番	魚庄 電話 〇九四〇・六二二三三五番	川口屋旅館 電話 〇九四〇・六二二〇四八番	はま荘 電話 〇九四〇・六二二〇五〇番	神湊スカイホテル 電話 〇九四〇・六二二三八〇番
------------------------	------------------------	------------------------	------------------------	--------------------------	-------------------------	-----------------------	-------------------------	-----------------------	--------------------------	------------------------	-----------------------------

